

(4) 高津区

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←————→ 悪
①災害対策	
②高齢化	・ 人と人のつながりがある ・ 町会活動すばらしい、団結してる ←————→ ・ 大きな病院少ない ・ 地域の若者とシニアの交流少ない ←
③子ども	・ 子どもが多い ・ ファミリー層多い ・ 病院、幼稚園、保育園、小中学校が駅に近い ・ 子育てしやすい！ ・ 保育施設が少ない ・ 遊び場が少ない ・ 子育て情報がつかみにくい ・ 医療助成が小1まで ・ 児童相談件数が多い ・ わくわくプラザの運営が不十分
④歴史文化	・ 芸術のまち ・ 史跡が結構ある ・ 自然豊か（ホテル）新鮮野菜（農） ・ 多摩川が近い →スポーツ ←————→ ・ みどりが多い ・ 映画館がない ・ かすみ堤の保存を！ ・ 知名度低い ・ ゴミ・ホームレスが問題 ・ フリーマーケット ・ イベント情報が多い ・ 車・自転車危険 ・ 放置自転車問題
その他のテーマ	・ 交通アクセスが良い ・ 買い物がしやすい ・ 掲示板の情報が活用できる ・ 電車が少ない ・ 道が狭い ・ 急坂が危険

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

高津区の4つのテーマ以外の主な意見は、交通アクセスが良いが、道が狭く、車や自転車が危険で、放置自転車も問題であるという意見が多数寄せられた。急坂が危険という意見もあった。

【防災対策】 午前中は意見が無かった。

【高齢化】 人と人とのつながりがあり、町内会・自治会の活動がすばらしいという意見がある反面、地域と若者とシニアの交流が少ないという意見が集まった。10年後に向けて、高齢者の医療施設（大きな市立病院、救急の対応も向上）の充実や閉じこもりのケアを大切にする必要があるという意見。駅から遠いところへ高齢者も移動しやすいようミニバスなど交通手段の充実が必要という意見。高齢者と子育て世代が交流できる場をとという意見も挙げられた。

【子ども】 子ども（ファミリー層）が多く子育てしやすい。病院、保育園、幼稚園、小中学校が駅に近いということが良い点として挙げられ、一方で、保育施設や遊び場が少ない、子育て情報がつかみにくい、医療助成が小学校1年まで、児童相談件数が多い、わくわくプラザの運営が不十分、中学に給食がないということが問題として挙げられた。10年後に向けて、のびのびと自由に遊べる、安心安全に子育てできる、「子育てしたいまち」にしたいという意見。また、中高生はお金がかかるので、休み期間中の中学生のバス料金の割引や、児童手当を高校生までのばすなどのアイデアが出た。子育て世代とシニアとの交流や、駅から遠いところへの移動手段の充実「高齢化」のテーマと同様に挙げられている。

(高津区)

テーマ③ テーマ 3: 将来(10年後)私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車 ・安全に走れる自転車レーンを整備(歩道と自転車を分ける) ・放置自転車をなくしたい ・地域の警察と連携して防犯対策	福祉・医療 ・高齢者の医療施設の充実 →閉じこもりのケアを大切に ・高齢者も移動しやすく ・市立病院が大事(大きな病院が少なく救急をもう少し!) ※シニアと子育て世代をつなぎたいというのは4区共通
子ども ・のびのびと自由に遊べるように、子育てしたいまちに!(森林も活用) ・休み中の中学生のバス利用負担減 ・安心安全に子育てできる環境 ・児童手当を高校生までのばしてほしい	みどり・環境 ・里山都市川崎最幸! ・平均的にみどりがあるまち
拠点 ・調和のとれた道路づくり ・駅から遠いところにミニバス増やす	観光 ・大山街道(歴史的施設)を盛り上げる高津区のウリに! ・映画館を川崎駅以外につくってほしい ・フロンターレをもっと応援(スタジアムを10万人規模に)
協働・行政サービス ・住民同士の団結を高めたい	その他

【歴史・文化・地域の魅力】 芸術のまち、史跡が結構ある、多摩川や新鮮野菜が楽しめる農家、ホテルなど自然が豊か、フリーマーケットやイベント情報が多い、図書館が多いなど、大切にしたい資源が多数挙げられた。多摩川は自然を楽しむだけではなくスポーツを楽しむ場ともなっているが、その反面、ゴミやホームレスが問題になっている。映画館が少ない、知名度が低い、史跡としてかすみ堤を保存すべきという意見が寄せられた。10年後に向けて、大山街道の歴史をもっと盛り上げて高津区のウリにしようというアイディアや、川崎駅以外にも身近に行くことができる映画館をつくってほしいという意見。フロンターレをもっと応援しようという意見。施設は女性に選ばれるという視点でつくるのが大事という意見、「里山都市川崎最幸!」という意見などが挙げられた。

(高津区)

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

①地域性に配慮した災害対策の推進	③総合的な子ども支援の推進
・「(仮称) ミニまちの防災情報の家」を増やす ・高津区の情報をキャッチ 日頃からやり取りが大事(ライフスタイルの共有) ・日中助け合う方法を商店街と共有 ・中学生を戦力に(防災授業) ・学校にいる人の安全を地域ぐるみで 日中まちにいる人が いかに関わるか	・働きたい女性が安心できる→保育園の充実→ハコではなくサービスとしての対応 ・病院施設→クリニック併設 専門スキルありのシッターが病児フォロー ・あそぶ場→空き地 ・義務教育時の学割 ・こども文化センター → 一括して民間のプロに任せて防災拠点・交流拠点
②高齢化の進行と地域の福祉医療	④歴史や文化資源など 地域の魅力を活かしたまちづくり
・高齢者と若者が気軽に集まれるコミュニティがほしい ↓ 場+キッカケが大切←行くことで貢献できる ・活躍できる場、仕事がある スキルを活かす・育てる マッチング ・福祉への理解 → 体験型の福祉教育(高校生) ・かかりつけ医 ・特養が高い→誰もが入れるように	・自然里山、歴史、商業、エンタメ →バランスのとれたまちづくりをアピール ・子どもが歴史にふれる機会 体験する ・ゆかりのアニメヒーロー(キャラクター)もっと好きになってもらう ・食文化を内外 PR (例:肉巻おにぎり) →インカムを生み出す ・里山的自然で子どものころから五感を磨こう

高齢者と若者が
コミュニティでつながる

体験を通じた
学び

(高津区)

午後の議論の傾向

【防災対策】 防災に関する情報を身近で得ることができる場所として「(仮称)まちの防災情報ミニスポット」を、関係者(交番、お店、学校、コンビニ、民間企業など)と協力しながら増やしていこうというアイデア。行政の防災情報を効率的に受け取れるしくみづくり。日頃からの人のつながりを増やすことで緊急時につながる。日中まちにいる中学生や商店街の人などに注目し、中学生の力を被災時に役立てるための防災授業の充実や、学校にいる子どもたちの安全を地域ぐるみで確保すること、商店街との連携方法を話し合うなどのアイデアが寄せられた。

【高齢化】 高齢者と若者が気軽に集まれる(行くことで貢献ができるような)コミュニティの場をつくりたい。その場に行けるキッカケづくりが大事という意見。高齢者が活躍できる場や仕事があること、そのために高齢者のスキルを、必要とされているところとマッチングすることが大事というアイデア。福祉への理解を子ども時代から深めて行くために、高校生に向けた体験型の福祉教育をというアイデアが挙げられた。その他、気軽に相談できる「かかりつけ医」や介護施設や特養老人ホームに安く誰もが入れよう環境を求める意見があった。

【子ども】 働きたい女性が安心して子育てできるよう、保育園の充実が必要という意見。専門のスキルを持ったシッターが病児をフォローできるようなクリニック併設の病児施設が必要という意見。義務教育の間は市バスや市施設の割引がきくしくみがほしいという意見。空き地などを活用した遊び場の確保というアイデア。こども文化センターを一括して民間のプロに任せ、防災拠点や、交流拠点としても活用するなどの意見も挙げられた。

【歴史・文化・地域の魅力】 自然里山、歴史、商業、エンターテインメントといったバランスのとれたまちづくりをアピールしていくことが大事という意見。子どもには歴史に触れるなど体験を通して学ぶことができる機会をつくりたいというアイデア。高津区ゆかりのアニメのキャラクターを、もっと知ってもらい好きになってもらうという意見。宮崎の肉まきおにぎりのように、食を通して地域の文化を内外にアピールしていき、お金を生み出すしくみをつくっていこうというアイデア。里山的自然に触れることを通して、子どもの頃から五感を磨くことができる機会が大事といった意見が挙げられた。

4つのテーマを横断する傾向

・体験を通した学びが必要

→若い世代に自然や歴史を学んでもらうために、「体験」というキーワードが共通して挙がった。

・ハコ物ではなくサービスとしてまち中に機能を増やすという発想が大事

→まちの防災スポットや、保育園をハコとしてではなく既存の空間にサービスやしくみを付与する形で活用するといった発想でアイデアが寄せられた。

・高齢者が子どもの学びに関わることが大切

→全区に共通するが、高齢者を人材として子どもや子育て層のために活かしていくというアイデアが寄せられた。

午後の意見交換の流れと解決アイデア

(高津区)

■グループ 1 地域性に配慮した災害対策の推進

●議論の流れ

- ・「日中発災時の対応」「災害時の情報環境」「住民一人一人の防災対策」と大きく 3 つの話題で話し合いが行われた。
- ・「日中発災時の対応」については、就学児を持つ参加者が多かったこともあり、日中は地区外で勤務しているため、発災した場合、すぐに迎えに行けないという意見が出された。その不安としては、①すぐに安否確認ができないこと、②学校で安全確保に係る適切な対策ができるかわからないこと、の大きく 2 点があがった。①の対応策としては、安否確認方法も含めて日頃から、近所や日中まちにいる方々に、自分が日中いないことも含めたライフスタイルを伝えた上で、協力関係を作っておくことが重要だという話になった。②の対応策としては、学校だけに任せるのには限界があるため、地域全体で今後考えなければならない課題として共有された。また学校の中でも、中学生以上であれば、災害時の担い手として活動できることから、防災教育・体験学習を重点的に推進することがアイデアとして出された。
- ・「災害時の情報環境」については、特に、自分が欲しい情報を欲しいときに得られる環境が整っていないという問題が指摘された。そのためには、行政が、IT 技術なども取り入れて積極的に仕組みづくりを行うべきという意見が出された。一方で、IT インフラに過度に期待しすぎると、それがダウンした場合に何もできなくなるという意見もあり、掲示板を活用した情報交換ルールの事前の取り決めなど、アナログ手段による情報環境の仕組みづくりも同時に進める必要があるという意見があった。
- ・「住民一人一人の防災対策」については、最終的には、個人・家族単位の自助による防災意識向上と事前対策の推進が最重要であることが共有された。その推進策の 1 つとして、身近にすぐに防災情報が得られる場所があると良いという話となり、まちなかに多く存在するコンビニを情報拠点にできないかというアイデアが出された。

●解決アイデア

- ◎中学校における防災教育の授業を全区的に実施するとともに、授業には親子で参加できるようにしよう（シール投票数 6 票）
- ◎日中に災害が起きた場合に、学校にいる子どもたちの安全をどのように守るか、学校だけではなく、地域全体で考えていこう（シール投票数 2 票）
- ◎日中まちにいる方々（商店街等）と日中まちにいない方々とで、あらかじめ災害時の協力方法を話し合っておこう
- ◎行政が発信する災害情報を効率的に受け取ることができる仕組みづくりとともに、緊急時に連絡のやりとりができる人とのつながりを日頃から増やしておこう（シール投票数 7 票）
- ◎基本的な防災対策やまちの防災活動に関する情報を身近で得ることができる場所として「（仮称）まちの防災情報ミニスポット」を、関係者（交番、お店、学校、コンビニ、民間企業など）と協力しながら、まちに増やしていこう（シール投票数 7 票）

(高津区)

■グループ 2 高齢化の進行と地域の福祉・医療

●議論の流れ

- ・高齢者、また障がいをもった方が地域の中でいきいきと暮らしていくための福祉・医療について「場づくり」「支え合い」「理解」をキーワードとして話し合った。
- ・「場づくり」に関しては、地域の中でいきいきと過ごすための基盤は地域コミュニティであり、高齢者や障がい者が気軽に集まれる場づくりが大切であるという意見があった。引きこもりにならないように、外に出向ききっかけや目的をうまく作り出していくアイディアが出された。
- ・「支え合い」については、元気な高齢者が、子育てや仕事で培ったスキルを活かして福祉に関わることで、社会に貢献しながら活躍できる場や生きがいを感じる仕事をつくり出すアイディアが出された。
- ・「理解」については、福祉や医療では、関心があってもどのように行動して良いか分からない人も多いのではないかという意見があり、体験型の学習などのアイディアが出された。
- ・そのほか、かかりつけ医の必要性や介護施設や特別養護老人ホームの競争率や費用の課題についての意見があった。

●解決アイディア

- ◎多世代が気軽に集まれるコミュニティの場をつくりたい（託児やリサイクルなど、市民運営で仕事を分担するとともに、出向いてもらえるきっかけをうまくつくるのがポイント）（シール投票数 10 票）
- ◎職業人としてのスキルや子育てのスキルを活かし、活躍できる場や仕事があると良い（シール投票数 7 票）
- ◎福祉への理解、関わり方がわからない人が増えている課題に対し、高校などで体験型の福祉教育を取り入れたい（シール投票数 3 票）
- ◎気軽に何でも相談できて、親切にみてる『かかりつけ医』がいると良い
- ◎介護施設や特別養護老人ホームの競争率や費用を下げてほしい（シール投票数 3 票）

■グループ 3 総合的な子ども支援の推進

●議論の流れ

- ・市立保育園の充実、病児保育の充実、子どもの遊び場の充実などについて話し合った。
- ・共働き家庭が増加し、そういった層を支えることが川崎市の発展につながるという認識から、市の認可保育園と同等のサービスを充実させることを求める意見があった。その際、将来的には老人ホームにするなど、限られた資源を上手く活用するために、用途転換を見越した施設整備を進めるなどのアイディアが出された。
- ・子どもが自由に遊べる場所が減ってきているという認識から、安全性に配慮しつつも、自由に子どもを遊ばせられる場所の整備が大切との意見があった。
- ・病児保育に関して、現状では中原区に 1 か所ということもあり、クリニックと併設して運用できるようにするという意見や、元看護師などの専門的なスキルを持った人に研修を受けてもらい、シッ

(高津区)

ターとして活躍できる場を提供するなどの仕組みづくりが重要というアイデアが出された。

- ・また、市バスなどの市のサービスへの学割の設定、教育水準の向上や制服を魅力的にすること、給食などの充実を図ることなどで、子どものうちから地域に愛着を育むことが将来的な川崎市の発展に資するという意見もあった。

●解決アイデア

- ◎共働きの子育て世帯を支援するために、認可保育園と同等のサービスを充実させよう（施設は用途転換を視野に入れる）（シール投票数 6 票）
- ◎既存の施設やスペース・場を、安全性に配慮した工夫を施して子どもが自由に遊べる場として整備しよう（シール投票数 3 票）
- ◎子どもが病気の時に預けられるように、①クリニックとの併設で行政の認可と補助を受けられる施設、②専門のスキルを持った地域の人が研修を受けてシッターになるなどの制度を充実させよう（シール投票数 8 票）
- ◎義務教育期間中は「学割」のように市バス等のサービスを安価で受けられるようにしよう（シール投票数 1 票）
- ◎子ども文化センター等の指定管理等を地域の NPO に一括して地域密着型の防災拠点、多世代交流拠点として活用しよう（シール投票数 3 票）

■グループ 4 歴史や文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり

●議論の流れ

- ・「歴史・史跡等の資源の PR」「歴史等の伝承や育成」「歴史や文化を通じた生き方」の大きく 3 つの点について話し合った。
- ・「歴史・史跡等の資源の PR」については、高津区内にある大山街道や円筒分水、子母口の古墳等の魅力ある歴史資源についてあまり知られていないことから話が始まり、住民にまず知ってもらうこと、対外的な PR 等に話が広がった。対外的な PR については、ただ歴史を扱うのではなく、高津区を舞台にしたアニメ、高津区の食文化等によってまずは高津区を知ってもらい、その上で歴史・史跡等を知ってもらう、間口を広げた PR の仕方についての意見があった。
- ・PR にもつながる話として話し合った「歴史等の伝承や育成」については、子どもが小さいころから歴史等に触れる機会をつくるのが、高津区を故郷と感じてもらうきっかけの一つである、という意見があった。歴史やものづくりの語り部の存在が重要で、特に高齢の方から伝承を受け継ぐためのボランティア育成、小学校の授業等を活用した教育を行っていくことが重要であるという意見もあった。
- ・「歴史や文化を通じた生き方」については、歴史・文化資源がはるか昔からの人々の営みの集大成であり、どのような生き方をしていくか考えていくことが、歴史・文化資源を形作る源であるという、根本についての話から始まった。参加者の 1 人が里山を以前営んでおり、人間の五感（人の営みに必要な動物的感觉）を形成する上での里山の良さに触れ、前述した子どもが歴史に触れる機会等の話へとつながっていった。

●解決アイデア

- ◎自然や里山・歴史・商業・エンターテインメントなどのバランスが取れたまちづくりをアピールしよ

(高津区)

う！(シール投票数 3 票)

◎歴史やものづくりの語り部との交流によって高津の子どもが歴史に触れる機会を増やそう！(シール投票数 4 票)

◎高津区の食文化や食べ物を打ち出して高津区内外の人たちに高津区を PR しよう！(シール投票数 3 票)

◎里山的な自然環境を増やすことで、子どもの頃から人の営みに必要な“五感”を磨こう！(シール投票数 9 票)

◎「のだめカンタービレ」「サンレッド」といった高津ゆかりのアニメやヒーローをきっかけに高津をもっと好きになってもらおう！(シール投票数 2 票)

ワークショップ風景写真



(5) 宮前区

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←————→ 悪
①高齢者	・ デイサービスが多い ・ 高齢者ががんばっている ・ 高齢化は心配 ・ 高齢者のパワーが活かされていない ・ 高齢者が増え、移動が大変
②子ども	・ 子どもが多く活気がある ・ 保育が充実している ・ 河川敷に広い遊びのスペースがある (マンションが安くなり若い世代が入ってくれる) ・ 保育環境をもっと良くしてほしい ・ 遊び場が少ない ・ 学童保育のバックアップがほしい
③駅前拠点整備	・ 交通の便が良い (都心に行きやすい) ・ 混雑率が高い→コミュニティバス回送バス活用バスが充実している ・ トレーニングになる ↔ 坂が多い ↔ ・ 交通が不便。公共施設にアクセスしにくい ・ 坂が多く移動が大変 ・ 災害 (雨水)
④地域活動	・ 地域のつながりがある ・ 高齢者が頑張っている ・ 治安が良い・夜明るい ・ 住民の結びつきが弱い ・ 高齢者の力が活きてない ・ 治安が悪い・夜暗い
その他のテーマ	・ みどりが多い、公園が多い ・ 農家、地産地消 ・ 公園が汚い ・ 建物が古い ・ スポーツ施設、図書館が不足

午前の議論の傾向 (4つのテーマ別に)

宮前区は4つのテーマ以外には、みどりや公園が多いという意見が多く、一方で公園が汚いという意見、みどりや街路樹をもっと増やしたいという意見も寄せられた。農家があることも良いこととして挙げられた。また、図書館やスポーツ施設が不足している、建物が老朽化しているという意見もあった。

【高齢社会】 デイサービスが多いことや、シニアが頑張っていることが良いこととして挙げられた。一方、高齢化は心配で、将来的に坂の多いまちなので移動が大変になることの不安が挙げられた。シルバーが頑張っていると挙げられた反面、シニアのパワーが活かされていないという意見もあった。

10年後に向けて、市営団地の建替えという問題が挙げられ、その際にデイサービス施設をつくることや、元気なシニアが働ける機会をつくることの必要性が挙げられた。また、老人医療、地域の見守りや在宅医療の充実が挙げられた。

【子ども支援】 マンションが安くなり子育て世代が入ってくることなどから子どもが多く活気があり、保育が充実していること。河川敷に広い遊びのスペースがあることなどは良いこととして挙げられた。一方、もっと保育環境を良くしてほしい、遊び場が少ない、学童保育のバックアップが少ないなどという問題が挙げられた。

10年後に向けて、小さな公園を整備し遊び場を増やすこと、土地所有者の寄付等による野球場やサッカー場などまとまったスポーツができる空間がほしいということ、郷土愛を育む教育や私設の学童保育への支援などが挙げられた。

(宮前区)

テーマ③ テーマ 3: 将来(10 年後) 私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車	福祉・医療
・自転車マナーの向上 ・安心安全→街灯を増やす ・防災(雨水対策→谷にたまる)	・団地建替え→デイサービスつくる、元気な老人が働ける ・老人医療の充実→地域の見守り、在宅医療
子ども	みどり・環境
・小さな公園整備(遊び場増) ・寄付による土地有効活用→野球場、サッカー場 ・郷土愛を育む教育 ・私設の学童保育への支援	・みどりをもっと増やす ・街路樹をもっと増やす
拠点	観光
・過疎化への歯止め ・交通整備(子育て・高齢者向け) →利便化南北の道 ・市営団地を再開発 ・小型バスが充実	・観光資源を活かす! ・地元をもっと知ろう!
協働・行政サービス	その他
・老人→子どもつなぐ ・小さなコミュニティつなぐ(イベント) →若者参加しやすい ・もっとつながりを ・町会活性化 新旧コミュニティのコミュニケーション ・IT インフラ充実→どこでも WiFi →防災・観光にアクセスできる	・野良猫対策 ・野川をもっとわかりやすく

【駅前拠点・地域交通】 都心へアクセスしやすいという意見が多く、バスも充実しているという意見もあるが、その反面、電車の混雑率が高いことや、区内の公共施設のアクセスが悪いことなどが多数挙げられた。坂が多いという地形的特徴について、移動が大変なことや雨水による災害の心配が挙げられた反面、坂はトレーニングになるなど健康面において前向きな意見もあった。10 年後に向けて、子育て層や高齢者に向けて南北をつなぐ道路をはじめとする交通整備の必要性、小型バスの充実、過密化への歯止めの必要性が挙げられた。

【地域活動・コミュニティ】 地域のつながりがあるという反面、住民の結びつきが弱い。シルバーが頑張っているという反面シルバーの力が活きていない。治安が良く夜明るいという反面、治安が悪く、夜が暗いと言った具合に良いことと悪いことの対立がみられた。10 年後に向けて、シニアと子どもをつなぐこと、小さなコミュニティをイベントなどでつなぐ、新旧住民のコミュニケーションの必要性なども挙げられている。また、どこでも wifi につながるなど、IT インフラを充実して防災や観光情報にアクセスできるようにというアイデアも挙げられた。

(宮前区)

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

①高齢者における生涯を通じた健康づくり	③総合的な子ども支援の推進
・お年寄り→子どもに教える場 ・身近な交通手段（100円バスが走っていないところを循環）で、閉じこもらないように！ ・すでにあるイベントをわかりやすく伝える ・“お年寄り110番の家”を増やして安心して外出できる環境をつくる ↓ コミュニケーションがとれる場にしたい	・親の負担を減らす！ →学童保育として「わくわく」があるが一部ではなく広く展開を ・老人から学びたい ・学童保育や認可保育園の充実 ・教育カリキュラムを見直そう ↓ 次世代が住みやすいまちに
②駅前拠点整備と身近な地域の交通	④地域活動・地域コミュニティの活性化
・バス：コミュニティバス（高齢者向けに本数は少なくても良い） →フリー降車区間、回送バスの活用 ・鷺沼ロータリーが満杯になってしまう - 自転車、歩行者→動線整理 - 田園都市線が止まった時の対策が必要 ・自転車のマナーアップ！	・自助・共助・公助 ↓ - ここをどうする 町会自治会のPR ・活動を通して得られるノウハウ共有 ・活動の拠点、集まれる場←敷居が高い ・情報のPR・共有を進める

(宮前区)

午後の議論の傾向

【**高齢社会**】シニアが家に閉じこもらず、地域で元気に活動できるようにするためのアイデアが寄せられた。一つはシニアが子どもに「教える場」をつくること、次にバス、トゥクトゥク（3輪タクシー）、人力車など身近な交通手段が充実することで外出を促すこと、出ていくキッカケとしての既存のイベント情報をシニアにわかりやすく伝えること、「お年寄り110番の家」を地域に増やして、外出後の安心できる環境を確保するなど、いろいろなシーンを想定したアイデアが寄せられた。

【**子ども支援**】子育て支援として、認可保育園や学童保育の充実を通して親の負担を減らすことが期待されている。学童保育の充実というアイデアでは高齢社会について議論したグループで出たアイデアと共通し、シニアから学ぶことができると良いという意見が出た。現在も「わくわく」があるが広く展開されることが期待されている。土曜日にも授業があれば親の負担は減るなど学校のカリキュラムを見直すことも考えられる。また、学童プラザ(仮称)という場を、学びと防災と地域コミュニティの拠点にしようというアイデアも出た。このようなアイデアを通じ、次世代を担う子育て世代が住みやすいまちにしたいという議論になった。

【**駅前拠点・地域交通**】高齢社会について議論したグループと共通して、高齢者も外出しやすい交通手段の充実が挙げられ、バス路線の充実、フリー降車区間の導入、回送車の活用、コミュニティバスなどのアイデアが寄せられた。鷺沼駅のロータリーがすぐ混雑してしまうため、車、自転車、歩行者等の動線整理が必要という意見。田園都市線が止まった時のバスとの連携強化。電動アシスト自転車が増えたことで、坂の多い宮前区においても自転車需要が増え、自転車のマナーの向上が必要という意見も出た。

【**地域活動・コミュニティ**】共助の力をいかに高めるか？そのために町会等の活動の「見える化」が必要で、身近な活動への参加やPRが必要という意見が出た。また、活動を通して得られたノウハウを共有すること、身近な活動拠点や、近所の人がふらっと集まれる場の充実。こうした情報を地域にPRするための工夫が必要という意見が寄せられた。

4つのテーマを横断する傾向

・既にある資源を活用することが大事

→資源とは、活動、人材、情報、場所など多岐にわたり、これらの情報が区役所にあると言われても区民には知られていないのではないかという意見が多く寄せられた。

・次世代が住みやすいまちにするための多世代交流が必要

→シニアが子どもの学びに関わることで、子どもは学校では学べない教育を得ることができ、親の負担も減るという考え方がグループを横断して寄せられた。

・高齢者が外に出るためのバリアを減らすことが必要

→坂が多い環境ということもあり、出歩くキッカケとなる身近な交通を考えることの必要性や、出歩く目的となる場や機会を充実する必要があることがグループを横断して寄せられた。

午後の意見交換の流れと解決アイデア

(宮前区)

■グループ 1 高齢社会における生涯を通じた健康づくり

●議論の流れ

- ・高齢化に伴う諸問題と対応、健康づくりの推進の大きく 2 つのことについて話し合った。
- ・高齢化に伴う諸問題と対応については、特に体が不自由な独居高齢者等、外出弱者が地域に増えつつあることに対して、何らかの外出支援が早急に必要という意見が出された。
- ・高齢者の外出支援のひとつとして前半は、特に地形の起伏が大きい交通不便地域を中心にコミュニティバス路線の充実の必要性に関する意見が出されたが、後半には、その継続には利用率向上の工夫や継続的な運営資金・体制の確保が必要でハードルが高く、実現に時間がかかるという話となり、公共に頼らず、民間出資で実験的に始められて、効果が低い場合はやめることもできるような移動手段を開発してはどうかという意見があった。
- ・また、地域に外出したいと思える目的や外出できる機会を用意する視点が重要だという意見が出され、高齢者の安心確保や顔見知りを増やすための「(仮) お年寄り 110 番の家」「教える場」づくりというアイデアが出た。
- ・健康づくりの推進については、大きく「心の健康」と「体の健康」の 2 つが話し合われた。「心の健康」については、話す機会を増やすこと、「体の健康」については、お年寄りでも気軽に参加できるスポーツの内容や施設を充実することが重要という意見が出され、その対策として、まずは、既存の催し・イベントへの参加促進を図ることが現実的であるという意見があった。

●解決アイデア

- ◎お年寄りが、安心して外出することができるように、地域に「(仮) お年寄り 110 番の家」を増やしていく (シール投票数 1 票)
- ◎住民、企業、商店街などが出資したり、運営するような、ちょっとした移動にも使える身近な移動手段を開発する (シール投票数 11 票)
- ◎学校や地域の子どもたちに、お年寄りが「教える場」をつくる (心の健康につながる) (シール投票数 8 票)
- ◎民間団体、地域住民、行政が企画し、すでに行われている健康づくりに関する催し、イベントの情報がみんなに伝わるよう広報の改善・強化を行う (シール投票数 4 票)

■グループ 2 総合的な子ども支援の推進

●議論の流れ

- ・「行政からの支援」「地域での助け合い」「公立学校の環境向上」の主に 3 点について話し合った。
- ・「行政からの支援」については、家庭の子育てによる主に金銭面での負担を背景に、幼稚園への通園や、私設保育園への金銭面での支援や、認可保育園の増設、学童の充実などの意見があった。
- ・「地域での助け合い」については、行政や学校頼りになりすぎず、地域の中で子育てをバックアップすることについて話し合われた。特に放課後の時間帯を使った学童の充実や、学校では教えてもらえない生活の知恵 (裁縫等) 等を学ぶ機会の提供などが意見としてあったほか、リタイアし、持ち無沙汰になっているシニア世代を地域での子育てにうまくマッチングさせることや、空き家など、

(宮前区)

使われていないスペースを勉強部屋等として使用することなど、地域の人的・物的資源の有効活用をするというアイデアが出された。

- ・また、このようなことを一体的に行う施設として「学童プラザ（仮称）」のような施設が各地域にあり、防災等、総合的な拠点として活用されることが望ましいという意見があった。
- ・「公立学校の環境向上」については、中学受験に向けて学習塾に通う小学生が比較的多い宮前区において、公立校の学習カリキュラムの充実を図り、学習環境や生活環境にもう少し余裕を持たせたい、という観点から話し合いが進んだ。なるべく教科ごとに先生をつけることや、運営方針の継続など、子どもが学習しやすい環境の充実を求める意見があった。また、共働き世帯が多い中、土曜日の午前中に授業があるだけでも、親子双方の生活にゆとりが出る、という意見があった。

●解決アイデア

- ◎学校では学べない・勉強を楽しみと思える学びをめざし、学校を間借りした学童保育の充実を図ろう（シール投票数 3 票）
- ◎学童プラザ（仮称）をつくり、学びと防災と地域コミュニティの拠点にしよう（シール投票数 11 票）
- ◎行政主導の子育て支援（補助金など）で学童保育や認可保育園等を充実し、子育てしやすい宮前区にしよう（シール投票数 6 票）
- ◎土曜日に授業する等、学校の教育カリキュラムや体制等を見直そう！（お母さんの負担減）（シール投票数 2 票）

■グループ 3 駅前拠点整備と身近な地域の交通

●議論の流れ

- ・身近な地域交通に関しては、バスの利便性向上と自動車・自転車の交通マナーの向上について主に話し合った。
- ・駅前拠点整備に関しては、鷺沼駅の現在の交通広場や歩行者空間、周辺商業施設が、現状のバスの台数や利用者数、さらには今後マンション建設等により起こるであろう利用者増を見据えた際に貧弱であるという意見があった。解決策については、再開発を求める意見もあったが、ハード整備が難しい場合も時間帯による自動車の進入規制やバス以外の交通手段への分散により対応できないかというアイデアがあがった。
- ・バスの利便性向上については、高齢者の視点と現役世代の視点から話し合われた。高齢者の視点からは、気軽に外出できる環境の整備が必要なため、路線数や小回り・融通の効く運行を求める意見があった。高齢期は、時間の融通はある程度つくため、本数を充実させるよりも路線数を優先したほうが良いという意見だった。また、既存の路線バスは谷線を通るルートが多いが、坂の上まで登ってきて欲しいという意見もあった。
- ・現役世代の視点からは、駅までの交通手段としての利便性向上のため、運行間隔の一定化と区内田園都市線 3 駅や近隣のたまプラザなどへのアクセスを求める意見があった。
- ・交通マナーについては、宮前区は坂のまちであるが、近年の電動自転車の普及により、自転車マナーの問題が顕在化していることがわかった。また、自動車については道路インフラの整備が不十分で、駅までのアクセス道の幅員がバラバラであるため、狭い道でもスピードを出すケースが多いとの意見があった。

(宮前区)

●解決アイデア

- ◎高齢者も外出しやすいようにコミュニティバスなどでバス路線を増やしたい（不便な地域にアンケートをとってニーズを把握する）（フリー降車区間の設定や回送車の有効活用などを検討しよう）（シール投票数 11 票）
- ◎田園都市線の区内 3 駅、たまプラーザなどへのバス路線の確保や一定間隔で走るように時刻表の整備をしてほしい
- ◎鷺沼駅のロータリーや駐輪場、憩いの場などの機能を強化したい（再開発や時間帯による自動車規制によって）（シール投票数 6 票）
- ◎災害時など田園都市線が止まるとバイパスがないので、センター北などとのバスとの連携をしっかりとっておくことが大切（シール投票数 3 票）
- ◎自動車や自転車のマナーを向上しよう（自転車販売店との連携などを検討）（シール投票数 4 票）

■グループ 4 地域活動・地域コミュニティの活性化

●議論の流れ

- ・地域コミュニティをテーマにした話し合いでは、マンション等の新住民やこれまで住んでいた旧住民の交流が足りないことや、地域コミュニティに関心がない人が増えていることなどについて話合った。
- ・町内会の活動についても話し合わせ、活動が見える化していないことで、どんな活動をしているかわからない、関わりたいと思っているが情報がないのでどうすれば良いかわからないという課題があげられた。町内会としては、情報発信をしっかりとすることで活動が見える化し、初めての人がとっかかりやすい体制づくりが求められているという意見が出された。
- ・また、活動拠点やコミュニティの拠点として、「場」が足りないという課題も話し合わせ、気軽にフラットに集まれる場や、実際に活動する人が集まれる場の充実を求める意見があった。ただし、気軽に集まれる必要があるため、アクセスの良さなどが重要視されるという意見が出された。
- ・地域活動やコミュニティの PR や情報発信も不足しているという課題が出され、市民意見やニーズにあわせて広報を工夫するなどのアイデアが出された。

●解決アイデア

- ◎町内会等の活動が見える化するために、清掃活動などの身近な活動への参加、上手な PR を進めよう（シール投票数 3 票）
- ◎民生委員が持っている高齢者や要介護者の情報等、活動を通じて得られる情報やノウハウを共有しよう（シール投票数 1 票）
- ◎近所の人が気軽にふらっと集まってコミュニケーションがとれる場を充実させよう（シール投票数 4 票）
- ◎地域で活動する際に、集まれる拠点をアクセスしやすい場所に設置しよう（シール投票数 8 票）
- ◎地域活動やコミュニティの場の情報発信や PR を工夫しよう（シール投票数 6 票）

ワークショップ風景写真

(宮前区)



(6) 多摩区

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなのところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①高齢者	・ 人間的にあたたかいコミュニティ	・ 高齢者が暮らしやすいまちに ・ 坂が多く移動が困難
②子ども	・ 子育てしやすい環境 ・ 子どもが多い	・ 若者がたまっていると怖い
③資源	・ 自然に恵まれている ・ みどりが多い （生田緑地・多摩川・二ヶ領用水 農家（梨畑）→季節の果物おいしい ウォーキングロード・サイクリングロードで散歩できる 魅力的な施設（民家園、藤子・F・不二雄ミュージアム、ばら苑、スポーツセンター） ・ 地域活動がさかん！	・ 自然の保護を（他の自治体と連携して） ・ 景観の配慮（住宅地造成） ・ 身近な公園をもう少し増やして
④駅前拠点		・ 駅がバリアフリーじゃない（遊園） ・ 道が狭い、一方通行が多い 稲田堤駅の改善
その他のテーマ	・ 交通アクセスが良い ・ 静か、住みやすい、買い物が便利 ・ みどりと住宅のバランスが良く 人口密度がちょうど良い 住みやすい	・ 区内の移動が不便 、踏切 （横の移動） ・ 駐車場が少なくマナーが悪い ・ 災害（特に大雨による災害）が心配 坂が多いが大丈夫か ・ 区内に働く場所が少ない ・ 公園の利用マナーが悪い ・ 転入者と地元のコミュニケーションが少ない

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

まず、4つのテーマ以外で多く挙げられたのは、みどりと住宅のバランスが良く、静かで住みやすいという声。坂が多いまちなので、大雨による土砂災害の不安、転入者が多いが町会・自治会など地域とのコミュニケーションが少ないことなどであった。その他、駐輪場が少ないことや公園の利用マナーの悪さ等。

【高齢者】 多摩区は、坂が多く高齢者にとって移動困難であること、高齢者が暮らしやすいまちにという意見が寄せられた。10年後の将来に向けて、一人暮らしでも生活できるような総合病院の増設など医療制度や介護の充実が挙げられると共に、高齢者が年金に頼らずに社会の中で活躍できるような再雇用やボランティアに参加できるシステムが必要という意見が挙げられた。また、子どもと高齢者の交流の必要性も挙げられた。高齢者の移動に関してコミュニティバスの充実も挙げられた。

【子ども】 子どもが多く、お金をかけずに遊ばせる場所がある、子育てしやすい環境が良いという意見が挙げられ、一方で、公園などに若者がたまっていると怖いという意見もあった。10年後の将来に向けて、子どもを預けたい人とシニアをマッチングするなど、学校以外でも学べる多世代交流の必要性が挙げられた。また、中学校にも給食を、教師の増員、保育園から小中学校まで子どもが心豊かに成長できるまちにしたいという声が続いている。

(多摩区)

テーマ③ テーマ3: 将来(10年後)私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車 ・駐輪場の拡充 ・自転車マナーの強化(ライト、左側通行) ・斜面地の防災対策 ・災害時の自給自足(自助・共助)	福祉・医療 ・高齢者医療制度の充実 ・高齢者の再雇用のシステム、年金に頼らない 社会の中で活躍できる環境 ・一人暮らしで生活できる体制(医療・介護) ・総合病院の増設
子ども ・中学生の給食、教師を増やす ・子どもが心豊かに成長(保育園～小中学校) ・預けたい人と中高年をマッチング	みどり・環境 ・豊かな自然を支える多摩川を大切に →環境資源を活かしたまちづくり ・梨畑(農地)の保全 ・野良猫の管理
拠点 ・交通機関の利便性→コミュニティバスの充実 (区内専用)バス路線の充実 ・ロマンスカーを登戸に! ・踏み切りなくし相互交流(跡地の緑道化) ・駅周辺の交通網整備	観光 ・多摩川の整備(より若い人が集まり活性化) ・三沢川を観光資源に(鯉を観賞) ・公共施設の充実
協働・行政サービス ・退職者が活躍、公的機関の開放 ・転入者と地元の交流を ・自治会に入り周りの方を知る	その他

子どもと高齢者が交流

学校以外でも学べるまち
寺子屋スタート

多世代が交流できる場

退職者が参加できる
ボランティアや仕事がある

【資源】 自然に恵まれているという意見がどのグループからも挙げられた。特に、生田緑地、多摩川や二ヶ領用水、梨畑など季節の果物を楽しめる農家といったみどりの資源の意見が多く挙げられた。民家園やばら苑、藤子・F・不二雄ミュージアムといった施設が充実していて、地域活動が活発で施設の運営にもボランティアが関わっているということも挙げられた。10年後に向けて多摩川や三沢川、梨畑などの農地など豊かな自然と環境資源を大切にしたいまちづくりが重要という意見が挙げられた。

【駅前拠点】 交通アクセスが良いが区内の移動が不便で踏切による地域分断が課題という声が多く挙げられた。拠点整備については、向ヶ丘遊園駅がバリアフリーではないことや、稲田堤駅の改善、道が狭く一方通行が多いなどの問題が集まった。10年後に向けて、駅周辺の交通網の整備、区内バス路線の充実や、踏切を無くすなどが挙げられた。

(多摩区)

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換

①高齢社会における生涯を通じた健康づくり ・一人暮らしでも地域でその人らしく生きていけるような環境づくり ・活動情報を GET ・幅広い世代が交流できる日、場所で開催 いきいき体操など ・外出でき、話しができる場 ・IT で情報が入手できるようシニアに若者が教える ・退職者が人に役に立つ機会づくり	③豊かな自然や観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり ・区内、区外への多摩区の PR ・梨畑を学び→食とコラボ ・交通手段で資源をつなぐ
②総合的な子ども支援の推進 ・虐待・いじめ問題等を相談できる環境 子→親 ・サークル活動（親が相談）←専門家 学童保育の充実 子ども時代の体験 ・親だけでなく地域や他の大人が子育てに関わる	④駅前拠点整備など暮らしやすい生活環境づくり ・多様な移動手段で区内の移動利便性をアップ ・鉄道による分断 →地下化、高架化 or バリアフリー、歩道橋 行政から鉄道事業者に働きかける ・買い物ができる商業施設を誘致 ・斜面地の安全性 →地滑りを抑える工事（ハード）や、IT を活用した情報発信（ソフト）

高齢者と子育て世帯が
地域の中で共に学び合う

(多摩区)

午後の議論の傾向

【高齢者】 高齢者が一人暮らしでも地域の中でその人らしく生きていけるまちが大事という議論になった。そのために、既存のいきいき体操などにさらに幅広い世代が参加できるよう、日程や場所を広げること、外出して話ができる場を広げることなどのアイデアが出された。そして、自ら参加できる活動の情報を得る力が必要で、高齢者がスマートフォンなど新しい情報ツールの活用の仕方を若い世代が教える機会をつくることが挙げられた。また、退職者がいつまでも地域で元気に活動できる機会が重要で、子どもや子育て層を応援できるようにすることが大事というアイデアが出た。

【子ども】 虐待やいじめの問題に対して、子どもが相談できる環境が重要で、どこに相談すればよいかという情報を整理することが大事というアイデアが出た。子育てをする親が相談できる機会としてもサークル活動が重要という意見も出た。子ども時代の体験を豊かなものにすることが大事で、学童保育の充実や、地域の大人が子育ての応援に関わることができる環境づくりが大事という意見が出た。

【資源】 区内、区外への多摩区の魅力を PR していくことが大事という意見が出た。企業・行政・学校が梨畑とコラボして学びの機会をつくることや、小沢城址と梨畑とを組み合わせ地域資源と食とのコラボをするなど、食との資源を掛け合わせるアイデアが寄せられた。点在する資源同士を交通、遊歩道などでつなぎ回遊性を高めることが大事というアイデアが出た。

【駅前拠点】 バス路線の一層の充実、サイクルシェア、コミュニティバスや車の乗り合いなど多様な交通手段で区内の移動手段を確保すること。踏切によるまちの分断の解消。静かな住宅環境を保全しつつ、買い物ができる商業施設の誘致の必要性。斜面地の安全性の向上などのアイデアが出た。

4つのテーマを横断する傾向

・情報のルートを整理することが大事

→他区のワークショップでは、情報が届かないという意見が共通して挙がっていたのに対して、多摩区では、IT を使いこなす力を教え合うなどしていかに「情報を取りに行く力」を持つかというアイデアが挙げたのが印象的である。

→その他、多様な情報を整理すること、内外への情報発信力を高めることが挙げた。

・高齢者も子育て層も地域の中で共に学ぶことが大事

→多世代がつながるというキーワードは各区で共通して挙げられている。多摩区では学校で地域と子どもがつながる寺子屋の取り組みが始まっているので、これらが全区に広がることが期待される。

・移動環境を見直し、高齢者の暮らし、観光資源、商業施設などをネットワーク化することで、多摩区の価値を高めることが大事。

午後の意見交換の流れと解決アイデア

(多摩区)

■グループ1 高齢社会における生涯を通じた健康づくり

●議論の流れ

- ・一人暮らしで孤立しがちな高齢者や地域とのつながりが希薄で、生きがいの再発見や交流機会が地域で見つけにくい退職者や高齢世帯が、地域活動に参加できる仕組みを総合的に整えることが大切という基本的な考え方を踏まえて、そのために必要な取組として、「外出・交流できる場づくり」「既存の地域活動への参加促進」「退職者の活動の機会づくり」の大きく3つの項目で話し合った。
- ・「外出・交流できる場づくり」については、人生の後半で、新たに人脈をつくる難しいことから、地域に気軽に立ち寄れるような場づくりの必要性に関する意見が出された。
- ・「既存の地域活動への参加促進」については、既存の地域活動や交流できる場への参加は、活動者側からのさらなる情報発信の工夫や参加しやすい企画づくりが大切である一方、それには限界があり、基本的には、個々人がその情報を自ら収集し、積極的に参加してみる、という意識が重要であるという意見があった。
- ・「退職者の活動の機会づくり」については、女性は色々な場へ積極的に参加する傾向があるが、特に男性は、気軽に参加しない傾向にあるという意見があった。そこで、退職者が自分の得意分野や話を広げやすい趣味を通じて、徐々に人とのつながりや活動の輪を広げられるような受け皿をつくるというアイデアが出された。
- ・総じて共通していたのは、地域活動やそれに関する情報は、自ら探せば、すでにたくさんあることを前提に、個々人が自分ごととして積極的に動く意識啓発が必要ということであった。そのきっかけとして、スマートフォンなど、便利な情報収集手段を高齢者が使えるようにする手立てを考える時期に来ているという意見があった。

●解決アイデア

- ◎一人暮らしでも、地域で「その人らしく」「安心して」生きていける仕組みを整える～人と人との交流の再生～（シール投票数 4 票）
- ◎引きこもりが起これないように地域の身近なところに「外出」できて「話」ができる場づくりを進めよう（シール投票数 1 票）
- ◎仕事を退職した方が、地域で「人の役に立てる」「趣味が活かせる」ような機会づくりを進めよう（シール投票数 10 票）
- ◎介護予防や健康づくりに関する既存の活動はたくさんあるので、活用しないと損！自分からその情報を GET しにこう！
- ◎いきいき体操など、すでに実施されている健康づくり活動への参加者の裾野を広げるために、多くの人が参加しやすい開催日程・場所を工夫するとともに、幅広い世代が運動を通じて交流できるような企画を考える（シール投票数 5 票）
- ◎交流する場や機会に関する情報を手に入れる・教える手段として、スマートフォンなどの IT 機器の使い方を若者が高齢者に教えよう（かわりに、高齢者に若者は色々な知恵やノウハウを教えてもらおう）（シール投票数 6 票）

(多摩区)

■グループ 2 総合的な子ども支援の推進

●議論の流れ

- ・総合的な子ども支援の推進をテーマに、「子どもの権利」の問題や、「子育て」の問題について話し合った。
- ・「子どもの権利」については、子育て家庭の貧困により子どもが未来に希望が持てなくなるという課題や、虐待、いじめ、不登校などがあげられた。これらに対して、まず、子どもが相談できる信頼できる大人が周囲にいないので、スクールカウンセラーとの連携や、チャイルドライン、インターネット相談の充実というアイデアが出された。また、子育てに悩む親も、相談できるところがないと追いつめられ、ひいては虐待の原因ともなるため、気楽に行ける子育てサークルの充実や、その場への専門家の参加などのアイデアが出された。加えて、子育てへの周囲のサポートについて、家庭や学校だけでなく、地域や他の大人が子育てに関わる機会づくりや、虐待・いじめの疑い事例に気づいた際の相談先の整理やアピールというアイデアも出された。
- ・「子育て」については、保育所や学童保育の充実の必要性に関する意見があった。また、子ども時代の充実した体験が子どもの豊かな心を育てるために重要であり、多摩区の自然や四季折々の行事などに触れる機会が大切というアイデアが出された。

●解決アイデア

- ◎虐待やいじめの疑いがあるときにどこに相談したらいいのか、情報の流れを整理し、アピールする（区の児童家庭課、民生・児童委員、児童相談所などがある）（シール投票数 3 票）
- ◎保育所や学童保育（わくわくプラザ）などの充実（病児保育もほしい、預けられる時間が長いと良い）（シール投票数 5 票）
- ◎虐待やいじめに悩む子どもが、信頼できる大人に相談できる環境づくり（チャイルドラインの充実やインターネット相談を受けている NPO 等との連携）（シール投票数 1 票）
- ◎家庭や学校だけでなく、地域や他の大人が子育てに関わる環境づくり（基礎学力をつける無料の塾、学校以外の場で大人とふれあう機会、音楽など勉強以外の自分の魅力に気づく場）（シール投票数 12 票）
- ◎子育てに悩む親が相談しやすいサークル活動の充実やその場への専門家の参加（例えばカウンセラーや発達障がいの専門家など）（シール投票数 2 票）

■グループ 3 豊かな自然や観光・文化資源など地域の魅力を活かしたまちづくり

●議論の流れ

- ・「区内外への多摩区の地域資源の PR」「地域資源をつなぐネットワークづくり」を主なテーマとして話し合った。
- ・「区内外への多摩区の地域資源の PR」は藤子・F・不二雄ミュージアムや生田緑地、ニヶ領用水など、魅力的な観光資源自体は多摩区内に多くあるものの、対外的に分かりやすい観光 PR に偏り過ぎている点について、意見があった。観光資源＝多摩区での生活の延長上の地域資源であり、区民が身近な自然や資源等に触れ、親しむことの重要性について、話が盛り上がった。特に昔は多くあった梨畑が減少しており、若い人や小さな子どもが知る機会が減っていることを憂う意見が複

(多摩区)

数あり、この梨畑を PR することや、企業や行政等との協働・支援のもと、小学生が梨狩りを体験し、学ぶ機会を設けてはどうか、というアイデアが出た。農業技術支援センターである「アグリパーク」との連携というアイデアが出された。

- ・「地域資源をつなぐネットワークづくり」は、交通の便の悪い地域資源が多い中、それらを繋ぐための交通利便性の向上や、遊歩道その他の整備などについて、話し合われた。観光については、藤子・F・不二雄ミュージアムと生田緑地の間の距離があり、せっかくの資源を活かしきれておらず、近くの向ヶ丘遊園跡地も含めた観光拠点として、ネットワーク整備ができるのではないか、というアイデアがあった。また、小沢城趾のような、場所の分かりづらい地域資源を PR するために、カフェや梨などを販売する施設などを簡易でも良いから併設させ、相乗効果をもたらすことができないか、といったアイデアが出された。

●解決アイデア

- ◎区外の人への伝え方（藤子・F・不二雄ミュージアムなど対外的な施設の紹介）と、区内にお住まいの方への伝え方（身近な自然や資源などの伝承）、上手に使い分けて皆で多摩区を PR しよう！（シール投票数 2 票）
- ◎多摩区の梨畑を残していくために、企業・行政・学校がコラボして、梨畑を学び、体験する機会をつくろう（アグリパークと梨の勉強会！？）（シール投票数 4 票）
- ◎「小沢城趾×多摩の梨カフェ」など、地域資源と多摩の食をコラボして、魅力を発信しよう！（地域の人がガンバル！）（シール投票数 9 票）
- ◎多摩区の自然や観光地などを交通・遊歩道などでうまくつないで、訪れた人が楽しくまわれる多摩区にしよう！（市バスがんばれ！）（シール投票数 13 票）

■グループ 4 駅前拠点整備など暮らしやすい生活環境づくり

●議論の流れ

- ・「駅前拠点整備など暮らしやすい生活環境づくり」について、住んでいる市民目線での細かな部分まで含めた問題意識がある部分について話し合われた。
- ・買い物ができる商業施設の不足については、商店の営業時間が短く、日用品の買い物が不便であることに對し、静かな住宅地を保全しながら商業施設を誘致できるように働きかけることを行政に求める意見があった。
- ・また、区内の移動が不便という課題に対しては、市バスの本数やルートの充実など行政サイドの役割を求める意見もあったが、サイクルシェアやコミュニティバスの充実、自家用車の乗り合いなど、環境に配慮したコミュニティ交通の充実や誘致がアイデアとして出された。
- ・鉄道によるまちの分断や開かずの踏切に改善を求める意見もあり、鉄道事業者との調整により、長期的には地下化や高架化、短期的には歩道橋の設置など、具体的なアイデアが出された。
- ・地域の生活環境の面では、斜面地が多い多摩区において、ミニ開発等による自然環境破壊の抑制や、斜面地の防災面の向上について具体的なアイデアが出された。

●解決アイデア

- ◎静かな住宅地を保全しながら買い物ができる商業施設を誘致しよう（シール投票数 4 票）

(多摩区)

◎区内の移動を便利にするために、①市バスの本数とルートの実、②サイクルシェア、③コミュニティバス、④車の乗り合いなど多様な手段を確保しよう（シール投票数 15 票）

◎鉄道によるまちの分断（踏切）を改善するために、長期的には高架化や地下化、短期的にはエスカレーターやエレベーター付きの歩道橋を設置できるように鉄道事業者に働きかけよう（シール投票数 5 票）

◎斜面地の安全性を確保するために、①安定化の工事、②防災情報発信の仕組みを構築しよう（シール投票数 3 票）

ワークショップ風景写真



(7) 麻生区

午前の意見交換の概要

テーマ① 好きなところ、自慢したいところ ⇄ テーマ② 気になるところ、なおしたいところ

午後の4テーマに関する意見	良 ←	→ 悪
①災害対策		
②高齢化	・病院が多い（医療が行き届いている） ・年輩の方はおおらか	・若い世代多いが将来の高齢化が心配 ・子どもの保育を高齢者が手伝えないか
③農と環境	・緑が豊か！（虫や鳥） →歩くのが楽しくなる ・農家が多く新鮮な野菜が食べられる ・公園が多い	・落ち葉掃除、雑草の手入れが大変 ・公園のメンテナンスが悪い、整備を十分に ・ゴミ分別のルールが守られない
④芸術文化	・芸術のまちとして誇れる ・音楽会場、文化施設が多い ・スポーツが盛ん	・地元の人以外よみうりランドを知らない
その他のテーマ	・都心に行きやすい ・駅前も静か ・街並が美しく道が整備されている ・治安が良い ・子育てしやすい 保育園が駅近	・市内のアクセスが不便 ・道路が狭い、歩道に傾斜があり歩くのが負担 ・車がスピード出し危険 ・痴漢が出る、夜が暗い ・幼稚園が少ない ・駐車場の少ない ・図書館の本が古い

午前の議論の傾向（4つのテーマ別に）

【災害対策】 防犯・防災は町田市や稲城市など隣接する他都市との連携が大事という意見が出た。

【高齢化】 病院が多く、医療が行き届いているという意見が多かった。まだ若い世代が多いが、将来の高齢化が心配という意見があり、高齢になっても地域で働いたり、子育ての応援や、近隣の支え合いなどで活躍の場があると良いといったアイデアが出た。そのツールとして市民通貨（地域通貨）をつくるというアイデアも出た。

【農と環境】 緑が豊かという意見が非常に多かった。公園が多いが、メンテナンスが悪いという意見が多く、メンテナンスを強化してもっと人が集まる公園にしたいという意見が出た。農家が多く、新鮮な野菜が食べられたり、農の風景が楽しめたりということが良い点として挙げられていたが、農家の高齢化で存続できるか心配という声もあった。農業を観光資源として開発しようという声も挙がった。

ゴミの分別が守られないので、子どもの頃からの教育でしっかり伝えたいという意見もあった。

【芸術文化】 芸術のまちとして誇れるという意見や、文化施設が多いという意見が多く挙がった。またスポーツが盛んという意見もあった。10年後に向けて、大人も子どもも音楽やスポーツが楽しめるようにしたい、アートのまちらしくパブリックアートを増やしたい、フロンターレをもっと応援し、川崎市を1つにしようというアイデアも出た。

(麻生区)

テーマ③ テーマ 3: 将来 (10 年後) 私たちのまちを どう良くしていきたいか出し合おう

防犯・自転車	福祉・医療
・ 自転車を利用しやすく→駐輪場を増やす ・ 駅に機能集中しすぎ ・ 防犯・防災は他市との連携が大事	・ 高齢世代にも働く機会をつくる ・ 発達障がい→教育面の援助 ・ 高齢者への見守りに定期的な声かけ ・ 近隣同士の支え合い
子ども	みどり・環境
・ 子育て支援の充実 ・ 子どもの医療費負担を少なく ・ 育児手当の充実 ・ 自分の意見が言える社会参加できる教育を	・ 野菜農家が高齢化→今後も引き継げるように ・ 公園の WiFi 化→なんでも調べられる、子どもにも良い ・ ゴミ分別ルールの認識低い →子どもの頃から教育が大事 →自治会での周知を徹底する ・ 公園メンテナンス強化 (人も増える)
拠点	観光
・ 丘の上までバス開通 (今は中腹まで) ・ ミニバスを走らせる (交通量が多いので自家用車を減らしたい) ・ 駅へのアクセス改善 ・ カップルで楽しめる施設を増やしたい	・ 農業の開発 ・ ふるさと納税の充実 ・ 大人も子どもも一緒に音楽・スポーツを ・ 世界に友人が増える→都市同土 ・ パブリックアートを多く (アートのみちを充実) ・ フロンターレを応援し川崎市を一つにしよう!
協働・行政サービス	その他
働くコミュニケーション ・ 市民通貨をつくり余力パワーを活用 ・ 総合区制度の導入 ・ 市の広報の充実を	・ 外国人との協力的関係を

色々な世代が
関わるイベントを

農を守り育てる

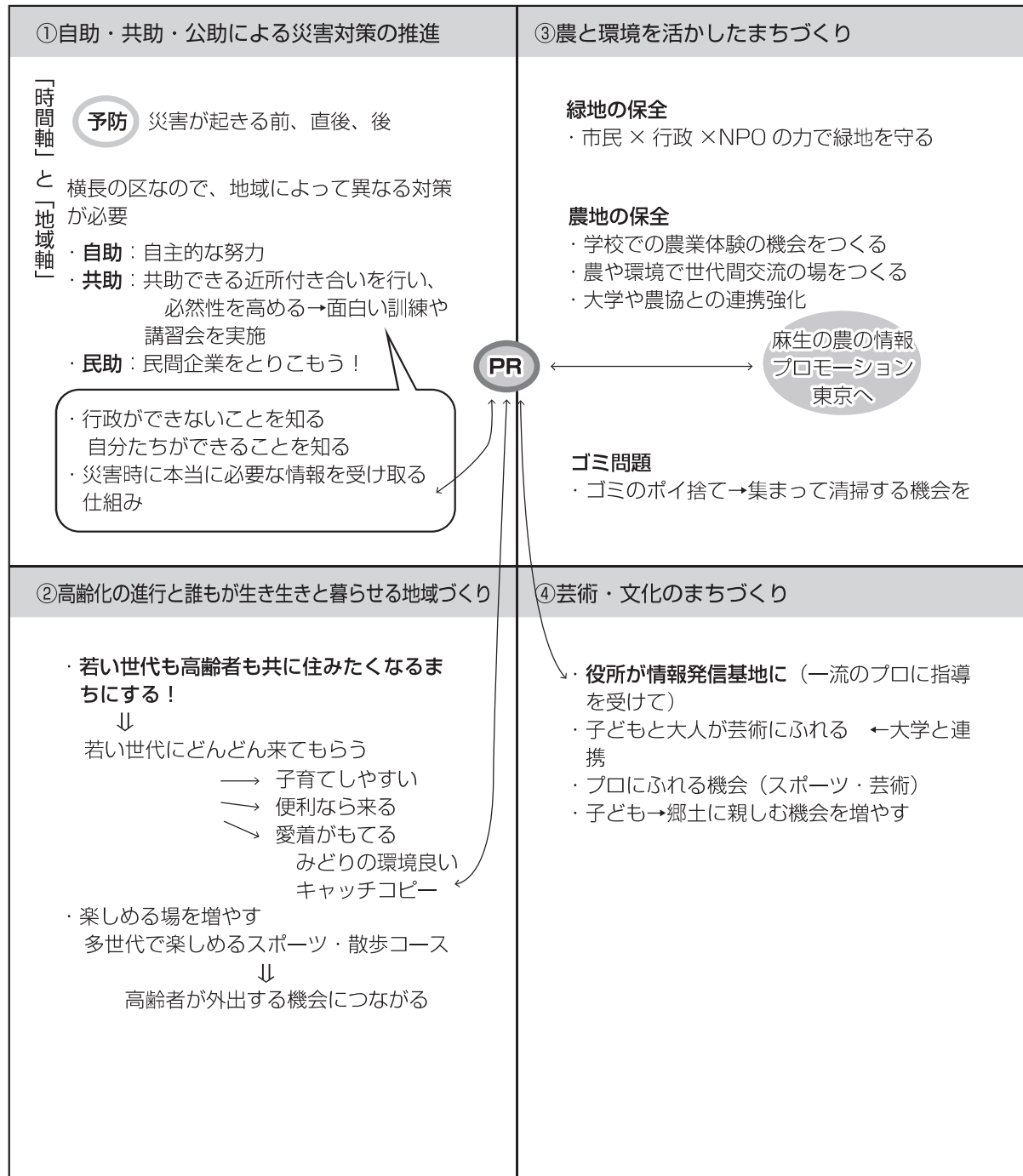
地区地域の
コミュニケーション
が大事

連携やコミュニケーションという
キーワードがテーマを横断して出ている

(麻生区)

午後の意見交換の概要

4つのテーマに分かれた意見交換



(麻生区)

午後の議論の傾向

【災害対策】「時間軸」と「地域軸」という2つの軸から提案が出た。時間軸は、特に予防が大事である。「地域軸」としては、麻生区は横長なので地域によってそれぞれの対策が必要である。「自助・共助」に加え、民間企業を取り込んで行こうという「民助」というキーワードが出た。行政ができないことを知るところから、自分たちができること（自助・共助）を知ること。災害時に必要な情報を受け取るしくみが大事という意見が出た。

【高齢化】 これからも若い世代がどんどん住みたくするようなまちにしていけることが大事で、そのために子育てしやすいこと、みどり豊かで環境が良いことなどを対外的にアピールしていくことが必要である。また、高齢になっても地域でキャリアを活かして働けるよう、仕事をつくることが大事である。外出することが楽しくなるような機会や場を増やしていくことなどが挙げられた。

【農農と環境】 緑地の減少を食い止めるためには、市民 × 行政 × NPO の力で守ることが大切である。農地の保全については、学校と連携した農業体験の機会や、多世代で農や環境を通じた交流の場をつくること、大学や農協などとの連携を強化すること、そして、農の情報のプロモーションを東京に向けて発信していくことなどのアイデアが挙げられた。ゴミのポイ捨てについては、市民が集まって清掃する機会をつくるというアイデアも出た。

【芸術文化】 行政はさまざまな取り組みを行っているが、それが市民に浸透していないため、情報発信に関して一流のプロに支援を受けて情報発信基地としての機能を強化する必要があるという意見が出た。また、大学と連携して子どもも大人も芸術に触れる機会をつくること、スポーツや芸術などの区内在住のプロに触れる企画をつくること、子どもには郷土に親しむ機会を増やすことなどが挙げられた。

4つのテーマを横断するキーワード

・PRの強化！

思ったより区ではいろいろなことに取り組んでいることがわかった。それが区民に伝わるPRが必要。区内だけではなく、区外に向けても発信していくと良い

・大学連携 → 農、芸術・文化

・プロ（区内在住の人的資源）→ もっとステップアップするための外部の力を得る

・世代間交流

・子ども→郷土に親しみ、農に興味を持つ教育→世代交代へ

・仕事をつくる・地域で働く

午後の意見交換の流れと解決アイデア

(麻生区)

■グループ1 自助・共助・公助による災害対策の推進

●議論の流れ

- ・「災害対策の官民分担」「災害時の情報環境」「避難所のあり方」と大きく3つの話題で話し合った。
- ・「災害対策の官民分担」については、行政への支援要望ではなく「何ができないか」が分かれば、市民側と効果的な役割分担が考えられるという意見があった。防災対策は、その分担、内容などについて色々な情報があふれており、誰が何をどこまでやるかが分かりにくい状況であるという話になった。この原因の1つは防災対策の担い手は自分（たち）という当事者意識の欠如であり、解決策を考える第一歩として、まずは、市民や地域が既存情報を収集し、自ら取るべき対策を考えることが重要であるという話になった。また「自助・共助」には、本来、民間企業も担い手として含まれるが、住民や自治会・町内会のみが担い手というイメージが強く、実際に、民間企業と住民の連携機会が少ないという意見が出た。そこで「民助」という言葉を仮に設定し、民間企業のノウハウ活用がアイデアとして出された。また、防災対策を災害時の特別な準備として分けるのではなく、日頃からの（コミュニティ）ビジネスの一環として取り組めるモデルづくりが効果的ではないかというアイデアも出された。
- ・「災害時の情報環境」については、市全体の情報とともに、自分が住む区や居住エリアに関するきめ細かい情報が適宜発信・受信できることが理想との意見が多く出された。
- ・「避難所のあり方」については、被災後の生活をできる限り自宅で行える各自の対策と意識向上を図ることで、発災した場合に、避難所の収容人数オーバーによる麻痺を未然予防し、要支援者が避難できる環境確保につながるとともに、円滑な避難所運営にも結果的につながるといった話になった。またペット問題は、これからの大きな課題だという意見があった。
- ・その他、災害の種別、発災時期、場所等の違いに応じた適切な対策を進める必要性についての意見があった。

●解決アイデア

- ◎市民自ら適切な行動ができるように、災害時に行政が「できないこと」「できること」を事前にきちんと把握しておこう（シール投票数 5 票）
- ◎災害時の各段階（災害直後→災害後→2～3日後→1週間後→1 か月後・・・）で、必要な情報が、地域単位で発信され、誰もがすぐに・簡単に受け取れる仕組みづくりを進めよう（シール投票数 11 票）
- ◎本当に避難が必要な方が、避難所に避難できるように、災害後も、できる限り自宅に居続けられる・住み続けられるように、市民一人一人が自助努力をしよう
- ◎体験型で楽しめる防災訓練など、地域住民の参加・交流が生まれる場を積極的につくって、日頃からの交流や近所付き合いを深めておくことで、災害時に「助け合える」人間関係を築き・増やしておこう
- ◎防災対策は、住民と行政だけではなく、民間企業とも連携することで、効果的な対策を組み立よう～自助・共助・「(仮称)民助」・公助～（シール投票数 8 票）

(麻生区)

■グループ 2 高齢化の進行と誰もが生き生きと暮らせる地域づくり

●議論の流れ

- ・ 高齢化が進行するなかで、高齢になってもいきいきと暮らせる環境づくりや多世代コミュニティの実現に向けて話し合った。
- ・ 高齢化の進行に対しては、若い世代が移り住んできたくなる魅力的な地域づくりとお祭りなどの多世代交流の機会づくりにより、多世代コミュニティを実現したいという意見があった。
- ・ 高齢者がいきいきと暮らすためには、生き甲斐と外出の機会づくりが大切だという意見があった。
- ・ 生き甲斐については、これまでのキャリアを活かした仕事づくりなどのアイデアが出た。
- ・ 外出の機会づくりについては、地域に楽しめる場、集まれる場をつくるアイデアや、おすすめのバリアフリーな散歩コースをつくるアイデアが出された。

●解決アイデア

- ◎若い世代、子育て世帯が住みたくなるような愛着を持てるまちにする（お店があって便利で、子育てしやすく、緑豊かで環境が良い）（シール投票数 6 票）
- ◎これまでのキャリアを活かし、地域のためになり、生き甲斐にもなる仕事をみんなでつくっていく（シール投票数 12 票）
- ◎引きこもりを減らし、外出のきっかけを与えるため、楽しめる場、集まれる場をつくる（シール投票数 7 票）
- ◎外出を促すため、車いすや足の不自由な人も一緒にいけるおすすめの散歩コースをつくる（シール投票数 1 票）

■グループ 3 農と環境を活かしたまちづくり

●議論の流れ

- ・ 本テーマでは、「教育を通じた農や食、みどりに関する意識の醸成」「大学や農協との連携や世代間交流の推進など、農や緑を通じたネットワークづくり」「農地や緑地の保全」「情報の PR」「農地の管理」「コミュニティ農園」などについて話し合った。
- ・ 教育的な観点としては、子どものころから農に触れる機会をつくる体験、交流的なものや、実際に自分でつくった野菜を給食で食べるといった食育のようなアイデアが出された。それにより、農に対する理解を深め、担い手不足の現状を打破することにつながるという意見があった。
- ・ 農や緑を活かした連携、交流に関しては、参加の入口のハードルを下げるのが大切であり、様々なノウハウをもった専門家の介入や連携により、より農や緑を取り巻く課題解決の担い手になることが期待されるというアイデアが出された。
- ・ 農地や緑地の減少という課題に対しては、行政、民間、市民がそれぞれできる範囲で役割を果たすことが大切であり、行政としてはガイドラインの検討、市民にとっては、負担にならないよう、花や緑を身近な場所に植えることなどが大切であるという意見があった。
- ・ あわせて、農地や緑地の管理についても、できるだけ地域の人達の力を借りて推進し、とりまとめ役を決めることで解決するのではないかという意見もあった。

(麻生区)

- ・ 農の PR については、麻生区内だけでなく、区外に対して PR することが大切だが、現状では不足しているという意見が出された。
- ・ また、市民が気軽に触れられるようなコミュニティ農園の充実も期待されているというアイデアも出された。

●解決アイデア

- ◎学校のカリキュラムに「農体験」を積極的に取り入れて、給食で食べるなど、「農」や「食」についての理解を育もう（シール投票数 6 票）
- ◎多世代が「農」や「緑」をテーマに交流できる機会をつくり、さらにそれを通じて実践の場につなげるために参加の入口を下げよう（シール投票数 7 票）
- ◎大学や農協などの地域の人材やノウハウを持った人達と密に連携しよう（シール投票数 8 票）
- ◎麻生区の「農」や「緑」の情報を集約して PR しよう（東京で出張販売、ロードマップの作成、地域内循環の推進など）（シール投票数 1 票）
- ◎農地や緑地が減少する課題に対して、市民パワーと行政パワーで守り抜こう（個人は空地に花を植える等の活動、行政は庁内で仕組みを検討、NPO 等の市民団体が実際に活動する）（シール投票数 2 票）
- ◎ゴミのポイ捨て問題や野生のツタの侵入など、町会・事業所・子どもが集まって清掃する機会を増やし、それらをエネルギーに変えよう（シール投票数 1 票）

■グループ 4 芸術・文化のまちづくり

●議論の流れ

- ・ 芸術・文化に加え、スポーツについても同軸の流れで論じるべき、という意見が出て、3要素について話し合った。
- ・ 「情報発信の仕方」「プロ・大学との交流や連携」の2点について主に話し合いが行われ、「郷土の学習」についても話し合った。
- ・ 「情報発信の仕方」については、有益な情報は多くあるものの、それが区民にうまく届かない状況について話し合われた。情報発信の仕方、人の目に届けるためのテクニック（例えばメディアミックス）などが必要で、特に市や区が大きく関わる情報などは、中途半端な人ではなく、プロ中のプロと連携し、ちゃんとした広報部を設け、広報していくことが重要であるという意見が出された。また、例えば川崎市アートセンターなど施設はあるが、あまり知られていない、イベントについても質が高いものがあっても知られていない状況があり、改善が必要であるという意見もあった。
- ・ 「プロ・大学との交流や連携」については、日本映画大学、昭和音楽大学といった芸術系大学がある麻生区では、もっとそれらの大学との交流や連携を強化し、区民の芸術・文化への興味を大きくすることが話し合われた。また、芸術系、文化系、スポーツ系のプロとの交流機会を増やすことも重要で、特に小さな子どものうちから触れる機会を増やすことで、夢を持ってもらえるのではないかと、という意見があった。
- ・ 「郷土の学習」については、区内の郷土、神社仏閣などを知ってもらいたいという考えから、資源を結ぶスタンプラリーなど、気軽に参加し、学ぶことのできるイベントを開催することがアイデアとして出された。

(麻生区)

●解決アイデア

◎緑豊かな麻生区の自然をいかして、野外音楽祭や市民スポーツ大会を開催しよう！（シール投票数 13 票）

◎本物のプロに相談しつつ、メディアミックスで麻生区の埋もれた芸術・文化・スポーツ情報を発信しよう！（市役所が情報発信基地！）（シール投票数 1 票）

◎芸術系大学との交流や連携を通じて、子どもも大人も芸術や文化に触れる機会を増やそう！（シール投票数 5 票）

◎敷居が低く、気軽に“プロ”に触れられる機会を増やし、芸術・文化・スポーツに興味を持てるまちにしよう！（シール投票数 4 票）

◎麻生区内の神社仏閣をめぐるスタンプラリーで、子どもが小さいころから郷土に親しむ機会をつくろう！（シール投票数 2 票）

ワークショップ風景写真

